

報道関係者 各位

2024年5月16日

ライフエンディングの最新情報をお届けする『燦ホールディングス Heartful Vol.13』を発行
2040年には、単身世帯が43.5%に急増する見込み*1
「おひとりさま」の未来への不安を払拭し、
充実したシニアライフを送るために必要なこととは

*1 出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(全国推計)(令和6(2024)年推計)」

公益社などの葬儀社を傘下に持ち、終活から葬儀後までのライフエンディングのトータルサポートを提供する、燦ホールディングス株式会社(東京本社:東京都港区、大阪本社:大阪市北区、代表取締役社長:播島 聡)は、『燦ホールディングス Heartful Vol.13』を発行します。

未婚率の増加、核家族化などの影響で一人暮らし世帯が急増しています。2000年に27.6%だった単身世帯は、2040年には43.5%となり、その半数近くが65歳以上の単身世帯になる見込みです。それに伴い、ライフエンディングに不安を抱え、「おひとりさまの終活」に興味を持つ人が増加しています。今回の『燦ホールディングス Heartful Vol.13』では、おひとりさまを取り巻くライフエンディングの最新情報をご紹介します。



〈燦ホールディングス Heartful 概要〉

◇発行日：2024年5月(Vol.13) ◇発行：燦ホールディングス ◇価格：無料
◇バックナンバー：

- Vol.10 「“新型コロナウイルス”との1000日間の戦い - 故人との最後のお別れをエンバーミングで叶えるために」
Vol.11 「悲しみに寄り添い20年 - 遺族サポート「ひだまりの会」を葬儀社が運営する意義とは」
Vol.12 「受け継ぐ人のいない「お墓」をどうする? 「墓じまい/改葬」をとりまく現実」

〈燦ホールディングスとは〉

1932年に「株式会社公益社」として創業、2004年持株会社制への移行に伴い、燦ホールディングスに商号変更。グループには「株式会社公益社」(持株会社制への移行時に会社分割により新設)、「株式会社葬仙」、「株式会社タルイ」、の葬祭事業3社および葬祭サービスに必要な機能を提供する「エクセル・サポート・サービス株式会社」、ライフエンディングサービスのポータルサイトを運営する「ライフフォワード株式会社」から成り、葬儀を中心としたライフエンディングサポート事業を展開しています。また、2023年3月から家族葬に特化した新ブランド「ENDING HAUS(エンディングハウス)」の全国展開を開始しました。1994年に葬儀会社として初めて株式を上場(当時の大証新二部)。現在は、全国に約5,000社あるといわれる葬儀会社の中で数少ない東証プライム上場企業です。

【燦ホールディングスグループ】

- ・燦ホールディングス株式会社 https://www.san-hd.co.jp/ ・株式会社公益社 https://www.koekisha.co.jp/
・株式会社葬仙 https://www.sousen.co.jp/ ・株式会社タルイ https://www.tarui365.co.jp/
・ライフフォワード株式会社 https://life-forward.co.jp/ https://www.eranda.jp/

〈新葬儀ブランド〉 ※2023年3月から家族葬に特化したブランドを展開中

- ・エンディングハウス https://www.koekisha.co.jp/endinghaus

〈本件に関するお問合せ先〉

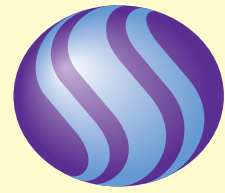
燦ホールディングス株式会社 / 株式会社公益社
広報代理 (株)インテグレートコミュニケーションズ

担当: 村山 (amurayama@integrate-com.co.jp)、TEL:03-5464-2046 FAX:03-5464-2076

SAN HOLDINGS

燦ホールディングス ハートフル

Heartful



燦ホールディングス株式会社
SAN HOLDINGS

2040年には、単身世帯が43.5%に急増する見込み^{*1}

*1 出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計（全国推計）（令和6（2024）年推計）」

「おひとりさま」の未来への不安を払拭し、 充実したシニアライフを送るために必要なことは

未婚率の増加、核家族化などの影響で一人暮らし世帯が急増しています。2000年に27.6%だった単身世帯は、2040年には43.5%となり、その半数近くが65歳以上の単身世帯になる見込みです。それに伴い、ライフエンディングに不安を抱え、「おひとりさまの終活」に興味を持つ人が増加しています。今回は、おひとりさまを取り巻くライフエンディング事情を紹介します。

おひとりさま急増の背景

50歳時の未婚割合^{*2}は、2000年に男性が10%の台を超えて以降、年々上昇を続け、2020年には男性28.3%、女性17.8%と増加の一途をたどっています。更に人口規模が大きく未婚率の高い団塊ジュニア世代がこれから高齢期に入ることから、2040年以降には身寄りのない高齢者が急増します。また、都市部を中心に進んだ核家族化の影響で増えた高齢者夫婦の「おふたりさま世帯」は、「おひとりさま予備軍」となります。

また、身寄りが無いといった物理的な「おひとりさま」だけでなく、家族はいるものの様々な理由により今は疎遠になっている、音信不通、関係を断絶しているなど、精神的な「おひとりさま」も少なくありません。

「おひとりさま」の周りで 起こっているお困りごと

「おひとりさま」のライフエンディングにおいて、様々な問題が起こる可能性を考えた場合、1. 老後から終末期、2. 葬儀時、3. 葬儀後の、大きく3つのフェーズに分かれます。

まず1つ目の老後から終末期についての問題は、心身の理由で外出できず孤立してしまう、認知症の発症、身元保証人がいな



いため賃貸住宅などの契約が出来ない、生前に私物を処分したいなど。

2つ目の葬儀時は、喪主は誰が担当なのか、どこでどのような形式で葬儀を執り行うのか、友人や知人に自身の死をどのように伝えるのか、葬儀に対する要望は誰に伝えればよいのか、費用はどうするのかなど。

3つ目の葬儀後については、遺産の行く末と遺産相続をどうするのか、お墓や納骨をどうするのか、遺品整理と形見分けをどうするのか、施設や自宅の撤去について、ペットをどうするのか、デジタル遺品への対応をどうするのかなど。

ここでは代表的な問題を紹介しましたが、その人によって起こりうる問題は様々です。予め、起こりうる問題を多く想定することが「おひとりさまの終活」の第一歩ともいえます。

全ては幸せなシニアライフ 送るために

先にあげたもろもろの問題は、全て生前に対応しておくことができます。

例えば、老後の生活の問題であれば、見守りサービス、身元保証人サービス、任意後見制度などを利用する。葬儀については、葬儀費用を信託銀行に事前に預けることも可能です。また、葬儀は喪主がいなくても生前に葬儀社に依頼しておけば希望通りに執り行うことができます。葬儀後の遺産管理、相続なども行政書士、司法書士、弁護士などの専門家に生前中に依頼し、死後に対応してもらおう。お墓や納骨も、お寺や霊園などに生前予約で納骨、永代供養などをしてもらうこともできます。また遺品整理、ペット、施設や自宅撤去・清掃サービスも専門の業者がいるので生前

予約をすることが可能です。

このように事前に準備しておくことで、いざという時、全て任せることができ、親戚や友人・知人などに負担をかける心配もありません。

自己流よりも 専門家に相談することがお勧め

とはいえ、もろもろの準備をするためには、様々な専門家や業者とのやり取りが必要になるため、全てを自身で進めるのはかなり大変です。



そこで、お勧めなのは「おひとりさまの終活」をよく知る、全てをワンストップでサポートしてくれる専門家をうまく活用することです。このようなサービスは近年増加しており、地方自治体、行政書士事務所や、終活サービスを提供する業者、葬儀社などがあります。

ライフエンディングサポート企業である燦ホールディングスのグループ企業 ライフフォワードでは、無料の電話相談の開設や、公益社ではおひとりさまの終活に関するパッケージ商品を提供しています。

「おひとりさま」のライフエンディングサポートに関する需要は今後ますます増加することが見込まれていることから、今後も多種多様なサービスや取り組みが展開されることが予想されます。

*2 出典：こども家庭庁「令和4年度 少子化の状況及び少子化への対処施策の概況/子ども・若者の状況及び子ども・若者育成支援施策の実施状況/子どもの貧困の状況及び子どもの貧困対策の実施状況」（国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」を基に作成されたデータ）

プロフェッショナル

人生100年時代を迎え、おひとりさまは増加の一方 漠然としたご不安に今すぐ寄り添える商品を開発

葬儀の現場で長年、ご遺族と直接関わってきたからこそわかる、お客さまの求めるサポート。
そんな強みを活かして商品開発を実践する企画部の業務を紹介します。

商品開発という関わりでお客さまを支え続ける

私は現在、企画部で商品開発を中心に、予算策定・業績進捗管理等を担当しています。以前はセレモニーサービス部(営業)において、お葬式の現場で施行担当をしており、ご遺族に直接お会いしていました。そして、「ありがとう」とお声がけいただくことがよくあり、ご遺族をサポートするうえで大きなモチベーションになっていました。

19年間も現場で働いてきたので、企画部に異動した際は、それまでの業務とはあまりに違うことに戸惑うばかりでした。しかし、周りのみんなに暖かくサポートしてもらったおかげで乗り越えられ、これまでにお葬式のプランやSDGs棺、ビューフェスタイルの通夜料理、といった商品開発にアイデアを持って携わってきました。「新商品の成功率は10%未満である」なんてこともいわれますが、うれしいことに成果が出て業績に貢献できているのを感じています。

今の業務ではお客さまと直接関わることはありませんが、商品開発をしてお届けするという形でお客さまをサポートしていることに、とてもやりがいを感じています。

現代に必要とされる、おひとりさま新商品

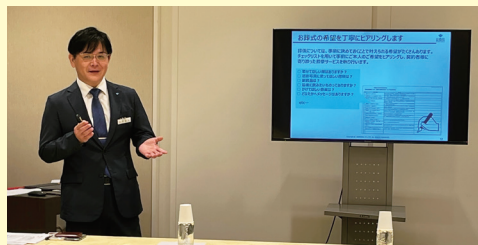
今回のおひとりさま新商品誕生の背景にあるのは、近年の「おひとりさま」に関する、社会課題の顕在化です。おひとりさまは増加の一途をたどっており、年を重ねるにつれ、ご自身のお葬式やその前後のことに漠然としたご不安を感じていらっしゃる方も多いといえます。2040年には世帯主が65歳以上のうち単身世帯、つまり「おひとりさま」が40%を超え、夫婦ふたり暮らし(おふたりさま)はといえますと、おおよそ40%前後。おふたりさまは、どちらか一方に先立たれると、たちまちおひとりさまになってしまいます。

そのような方々に寄り添い、安心して老後を過ごせるサポートを行うために生まれたのが、おひとりさま新商品「喪主のいないお葬式」です。

自身のライフエンディングを今から準備ができるのが魅力

お葬式のこと、お墓のこと、相続や遺品整理などの事務手続きといったライフエンディングのアドバイスを任せられるライフフォワード株式会社と、葬儀のプロフェッショナルである葬祭ディレクターが多数在籍する株式会社公益社が、タッグを組んだ新商品「喪主のいないお葬式」。どちらも燦ホールディングスグループの傘下である2社が、終末期の手続きから葬儀の施行、葬儀後の手続きまでセットにしたプランをワンストップでトータルサポートいたします。

ご不安を抱くおひとりさまの「自己決定権の尊重」を大切に、ご自分のことをご自身で決められるライフエンディングプランをがっちりサポート。ご本人とご家族・親戚の負担は軽減され、事前に決めていた通りの旅立ちを迎えられます。



葬儀の現場を知る立場から、お客さまに寄り添えるプランを企画立案

ある1日のスケジュール

- 8:30 出社、メール連絡等のパソコン作業
- 9:00 部内ミーティング
- 10:30 企画立案等のパソコン作業
- 12:00 昼休憩
- 13:00 他部署との打ち合わせ
- 14:00 外部業者との打ち合わせ(web会議)
- 16:00 他部署との打ち合わせ(web会議)
- 17:00 直属上司との打ち合わせ
- 18:00 退社

オフタイムのこだわり

「自由と孤独」をモットーに、ひとりの時間を大切にしています。そのため、家族からは『ムーミン』に出てくるスナフキンみたいだと言われますが、オンオフを切り替えてリラックスするのが目的です。そのおかげで、また仕事をがんばれます。



大坪 康介(おおつぼ こうすけ)

2001年 株式会社公益社入社
営業部(現セレモニーサービス部)に配属
2020年 株式会社公益社 企画部に異動

入社から19年間は、セレモニーサービス部(営業)で、大阪・兵庫・奈良の現場でお客さまと直接関わり、その後、大阪本社企画部で商品開発を中心に、予算策定・業績進捗管理等を担当している。

燦ホールディングス グループとは

1932年に「株式会社公益社」として創業、2004年持株会社制への移行に伴い、燦ホールディングスに商号変更。グループには「株式会社公益社」(持株会社制への移行時に会社分割により新設)、「株式会社葬仙」、「株式会社タリイ」の葬祭事業3社および葬祭サービスに必要な機能を提供する「エクセル・サポート・サービス株式会社」、ライフエンディングサービスのポータルサイトを運営する「ライフフォワード株式会社」から成り、葬儀を中心としたライフエンディングサポート事業を展開しています。また、2023年3月から家族葬に特化した新ブランド「ENDING HAUS」の全国展開を開始しました。1994年に葬儀会社として初めて株式を上場(当時の大証新二部)。現在は、全国に約5,000社あるといわれる葬儀会社の中で数少ない東証プライム上場企業グループです。

<https://www.san-hd.co.jp/>

シニア世代とそのご家族の人生によりそい、ささえる ライフエンディングパートナー

